

OIST 新型コロナウイルス対応 基本方針

警戒レベル × OIST 活動

2022年6月7日 体裁及び文言調整
2021年12月1日 制定

段階と目安（国の「レベル」分類）	研究活動	授業等	出張	学内会議	イベント （学術・ビジネス）	クラブ・ レクリエーション活動
0 新規感染者がゼロ	基本的な感染対策を施し、通常業務を遂行する。					
1 安定的に一般医療とコロナ医療が両立可能	ファカルティ及びユニット/セクションの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行う。	十分な感染防止対策を施したうえで、対面及びオンラインを併用して実施する。	出張先の感染状況を確認したうえで出張する。 出張後は PCR 検査等の受検を原則とする。	十分な感染防止対策を施したうえで、対面及びオンラインを併用して実施する。	十分な感染対策を施したうえで、沖縄県の対処方針に従い実施する。	
2 感染者が増加傾向。段階的な病床増でコロナ医療が可能					可能な限りオンラインで実施する。 対面での実施が必要な場合は、十分な感染対策を施したうえで、沖縄県の対処方針に従い実施する。	
3 一般医療を相当制限しないとコロナ医療に対応できない。従来の「ステージ3・4」にあたる。	ファカルティ及びユニット/セクションの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行う。 ただし、現場での滞在時間を減らし、オンラインでの活動を推奨する。	原則、オンラインで実施する。 定期試験や学位論文審査、実技・実験・実習等、対面での実施が必要な場合は、十分な感染防止を施したうえで、実施する。	業務上やむを得ない場合に限り出張ができる。 出張後は PCR 検査等の受検を原則とする。	原則、オンラインで実施する。 対面での実施が必要な場合は、十分な感染防止対策を施したうえで実施する。	原則、オンラインで実施する。	
4 一般医療を大きく制限してもコロナ医療に対応できない。		原則、オンラインで実施する。	原則、禁止とする。	原則、オンラインで実施する。		